

演芸場で都々逸を聴く

大学の教室で都々逸を聴いてから、どうも都々逸と小三亀松師匠のことが気になった。大須演芸場に電話して師匠の出演時間を確かめ、時間をやりくりして大須に向かった。

大須は平日なのに老若男女や外国人観光客などがたむろして、独特の雰囲気醸し出していた。演芸場には途中入場なので1000円で入れた。観客はお年寄りを中心に10数名



だったが、それでも多い方という。最前列に2人の若者が並んでいたのが目に付いた。

落語や皿回しに続いて、小三亀松師匠の登場である。師匠の三味線と都々逸は教室よりも「名調子」であった。教室のときは朝早く、声の調子も悪かったという。やはり本物の芸は、舞台上こそ味わえる。テンポの良い都々逸のあと、奥さんの日比純子さんが美空ひばりの懐かしい歌を披露した。80とは思えない張りのある歌と踊りであった。

20分の持ち時間はあっというまに過ぎ、演芸場に幕がおりた。あと1日で6月の公演は終わり、演芸場では別の催しが行われる。近くに座っていた常連らしきお婆さんが、公演が終わると演芸場に来れないと嘆いていた。



せっかくなのでお弟子さんに頼んで、楽屋に師匠らを訪ねた。狭い楽屋であったが、師匠らは歓迎してくれた。大学で公演してもらった際の写真を渡したら、本当に喜んでもらえた。来年も大学で公演してもらいたいと頼んでおいた。短時間ではあったが、小三亀松師匠に会え、芸人さんの楽屋裏を見ることができ、貴重な経験が味わえた。

(2007年7月5日記)